

市民の安全・安心の向上を目指して

消防指令センターの運用を開始します

近年の災害は、火災や救急などに加え、多様化・大規模化し、消防を取り巻く環境は大きく変わってきています。市では新たに10月6日(火)から三島市消防本部（南田町4-40）の敷地に建設された三島市、裾野市及び長泉町消防指令センターの運用を開始します。この施設は、高機能通信指令システムを備えて、消防の初動体制の確立と強化を図ります。



問合せ 消防総務課 (☎972-5801)

消防指令センターについて

ところ 南田町4-40（三島市消防本部敷地内）

体制 三島市、裾野市、長泉町の消防職員17人



高機能通信指令システムの特徴

さまざまな機能を活用することで迅速な出動や災害対応が可能となります。

- 1. 通報** ▶一般電話、IP電話、携帯電話からの119番通報のほか、FAXや電子メールによる多様な通報に対応できます。
- 2. 特定** ▶位置情報通知装置や住所検索装置の活用により、迅速に災害発生場所を特定します。
- 3. 出動** ▶最適な出動車両を自動で選別し、出動指令を行います。
▶出動車両は、搭載した車両運用端末装置により、車内で災害発生場所の特定や災害状況などの情報共有を図ります。
- 4. 現場** ▶デジタル無線による隊員間の災害情報の共有により、的確な現場活動に努めます。

災害発生

通報

特定

出動

現場

119番通報のポイント

突然の災害を目の前にすると、人は緊迫感から慌ててしまいます。そのようなとき、通報者ができるだけ冷静に通信指令員の問いに答えることができれば、通信指令員は迅速に発生場所の特定や状況の把握ができ、「命をつなげる」ポイントとなります。また、普段から自宅周辺の目標物や通報に使う可能性のある電話番号などを、いざというときのために確認しておきましょう。

平成26年度の119番などの受信件数

三島市	6,035件	裾野市	2,619件
長泉町	1,898件	合計	10,552件

テレホンサービス番号変更のお知らせ

10月6日(火)午後5時から、火災などのお知らせや、救急医療機関の電話案内の番号が変わります。

▶火災などの災害情報案内

新電話番号 ☎983-0105

電話をかけ案内メッセージが流れた後、三島市の番号「1」を入力してください。市内で発生している火災などの案内が流れます。

※旧電話番号 935-5115

▶休日や時間外の救急医療機関の案内

新電話番号 ☎983-0116

自動音声で当日の救急協力医をお知らせします。

※旧電話番号 935-6699

広島市平和祈念式中学生参加報告

市では、平成7年度から毎年8月6日に行われる広島市平和祈念式に市内の中学生を派遣しています。これは、三島の将来を担う若い人たちが戦争の悲惨さや平和の尊さについての思いを広く伝えられる人になってほしいと願うからです。参加者の感想の一部を紹介します。※全文は市ホームページで公開中



【錦田中学校3年 永井 詩音^{しおん}】

広島に行き感じたことは三つあります。一つ目は、戦争がいかに残酷なものだったかということです。70年前は生徒が工場働き、国のために戦っていました。二つ目は、原爆の恐ろしさです。想像を絶するものが多くあり、あ然としました。三つ目は、私たちができることから平和をつくっていこうということです。平和な世界が続くように次の世代へ伝えようと思います。

【南中学校2年 西島 美奈子】

原爆ドームなどの現実を目の前に戦争の怖さを知り、感じ、平和のありがたさに感謝する心を再認識できたと思います。被爆者の平均年齢が80歳を超えた広島では「語り部」がなくならないよう、被爆体験伝承者の養成を進めているそうです。「語り部」が広島にしかないのは問題です。私も平和な日本、そして美しい三島を守ることができるよう、「語り部」になります。

【北中学校3年 鈴木 春菜】

広島で心に残ったことが二つあります。一つ目は、戦争を繰り返してはいけないということです。資料館や原爆ドームを実際に見て、心からそう思いました。二つ目は、この戦争を次の世代の人に語り継がなければならないということです。語り継ぐことで戦争の恐ろしさを一人一人が理解し、二度と起こさないようにすることが私たちの使命だと思いました。

【中郷中学校2年 甲斐 奈菜美】

広島市平和祈念式への参加で、自分が体験したかのようにとても胸が痛くなりました。一つは原爆で14万人の命が奪われてしまったのはとても悲しいです。遺族の方々の悲しみを忘れずに、戦争を知らない私たちの世代も広島への思いを忘れずに、もう二度と戦争を起こさないように、平和の大切さを伝えていかなければいけないと改めて感じました。

【北上中学校2年 蒲谷 亜美】

祈念式に参加して原子爆弾の恐ろしさ、当時の人々の恐怖、後遺症などで未来にも影響するということが改めて理解しました。私たちは戦争を絶対にしてはいけないし、日本のみならず、全世界にも同じ考えを広めなくてはならないと思いました。中学生には大きなことをやる力はありませんが、まずは家族、友人などに、式典の様子を話すことから始めたいと思います。

【中郷西中学校2年 高橋 沙也】

原爆の遺品や被爆資料から言葉にできないほどの苦しみ伝わってきました。かろうじて生き残った人も、心と体に大きな痛手を受け、多くの被爆者が今も苦しんでいます。戦争を体験していない私たちは、戦争の時代を生き抜いてきた人の話を聞いて戦争について知る必要があると思います。そして、平和な世界のために核兵器をなくし、平和について考えていきたいです。

【山田中学校1年 池田 理愛^{りあ}】

この広島研修を通して、改めて戦争の悲惨さを感じました。会場の石碑には「どうか安らかに眠ってください。過ちはもう二度と繰り返しませんから」と刻まれていました。もし、また戦争に加わることになったら、石碑に刻まれていることは嘘となり、亡くなった方々も安らかに眠ることなどできないだろうと感じました。

【日本大学三島中学校3年 竹中 一晴】

資料館で午前8時15分で止まっている腕時計を見たときに、実際にこの広島に原子爆弾が落ちたという実感がわきました。目を背けたくくなるような写真もたくさんありましたが、しっかりとみることで、過去にあった事実をしっかりと学ぶことができました。日本が平和でも世界のどこかでは紛争や戦争が行われています。世界中が平和になることを願います。